〔個別研究〕

# 母乳育児に関する意識調査研究（I）

## ―栄養士・保育士養成課程の学生の意識について―

母子保健研究部　堤　ちはる・高野　陽
嘱託研究員　三橋扶佐子（日本歯科大学共同利用研究センター）

要約：1989年、WHO/UNICEFが「母乳育児成功のための10カ条」（以下、「母乳育児10カ条」）を発表してから、わが国においても母乳育児推進運動が展開されてきた。本研究は栄養士・保育士養成施設校の学生について、母乳についての理解と母乳育児推進の意識の現状を明らかにし、その結果を母乳育児推進に役立てることを目的に実施した。対象者は栄養士養成施設校（栄養系）10校2780名、保育士養成施設校（保育系）6校734名の女子学生であり、横断的研究と縦断的研究を行った。質問紙により、①母乳育児に対する希望、②母児同室に対する希望、③「母乳育児10カ条」の認知度、④母乳に関する基礎知識、⑤「母乳育児10カ条」の理解度を調査した。その結果、現在、栄養系学生に対して行われている教育は「母乳栄養」に偏り、「母乳育児」の視点が欠けているために、母乳に関する基礎知識について栄養系は保育系に比べて正解率が高いが、「母乳育児10カ条」の理解度は十分ではなかった。一方、保育系学生は「保育」の視点から母子について学びを深めているために、「母乳」について学んでいなくても「母乳育児」の理解度は栄養系学生より高かった。しかし、「母乳」についての基礎的な知識習得は十分とはいえない状況にあることが明らかにされた。「母乳育児」の実践には、「母乳」を「栄養」面から捉えるだけでなく、母親と乳児をとりまく多領域の多職種により行われる教育、ならびに支援が必要である。今後、栄養士や保育士の養成に携わる者は、自らが母乳育児の推進に対して研鑽を積むとともに、学生に対しては母乳や母乳育児について正しい知識修得が可能となり、母乳育児の意識を高められるように、教育カリキュラムの見直しや卒後研修の充実に努めることが重要である。

見出し語：母乳育児、「母乳育児成功のための10カ条」、母乳栄養、栄養士、保育士

**Awareness Survey on Breastfeeding（I）**
**A Study of the Awareness of Students in the Fields of Nutrition and Nursery Education**

Chiharu TSUTSUMI,　Akira TAKANO,　Fusako MITSUHASHI,

**Abstract：** Japan has been actively promoting breastfeeding ever since the Ten Steps to Successful Breastfeeding was announced by WHO/UNICEF in 1989. This study shows the present understanding and awareness concerning breastfeeding among students who are studying to become dietitians or nursery school teachers. Its goal is to use its results to help promote breastfeeding. The number of people surveyed was: 2,780 female students in 10 schools specialized in the field of nutrition and 734 female students in 6 schools of nursery education. The survey consisted of five topics: 1. Specific needs in breastfeeding; 2. Specific needs concerning mother and child being in the same room; 3. Recognition of the "Ten Steps to Successful Breastfeeding"; 4. Basic knowledge on breastfeeding; and 5. Understanding the "Ten Steps to Successful Breastfeeding". As a result, the students studying to become dietitians were very much aware of the nutrition side of breastfeeding, but not breastfeeding as a whole. Their understanding of the "Ten Steps to Successful Breastfeeding" was not complete. The students who are studying to become nursery school teachers, on the other hand, had a better understanding of breastfeeding as whole even if they had not learned enough about breast milk. To practice breastfeeding, one must not only look at it from the point of view of nutrition, but also from the intricate mother-child relationship. It is necessary to restructure the curriculum and establish post-graduate training programs for the students, so that they can obtain correct knowledge about breast milk and breastfeeding and be able to effectively use it in their work..

**Key Words：** breastfeeding, "Ten Steps to Successful Breastfeeding", nutrition side of breastfeeding, dietitian, nursery school teacher

## Ⅰ．研究目的

妊娠中から「自分の子どもは母乳で育てたい」と思っている人は多い。ところが、わが国の母乳栄養率の推移をみると、1960年代は生後1か月時70%程度であったものが、1970年代には30%台まで急激に低下している。その後、1989年にWHO／UNICEFが「母乳育児成功のための10カ条」[1]（以下、「母乳育児10カ条」）を共同声明で発表してから、わが国においても母乳育児推進運動が展開されている。しかし、近年、母乳志向は認められるものの、母乳栄養率は生後4～5か月時点で35.9%（2000年）[2]にとどまり、先進国の中ではアメリカ合衆国27%（2001年）[3]、イギリス21%（2000年）[4]と並んで低く、母乳栄養率の明らかな増加には至っていない。

母乳育児を推進するためには、母乳や母乳育児に関する正しい知識を普及する教育、ならびに母乳を与える過程で生じる不安や心配を解決できるように、多領域の多職種による様々な角度からの総合的な支援が必要である。母乳育児の推進には母乳や母乳育児についての理解が重要であり、現在、母乳育児の推進は主に医師、保健師、助産師、看護師らにより実施されているが、栄養士（管理栄養士を含む）や保育士による推進についてはほとんど報告されていない。そこで、本研究は栄養士・保育士養成施設校の学生について、母乳や母乳育児についての理解と母乳育児の推進に対する意識の一端を明らかにし、その結果を母乳育児の推進に役立てることを目的に実施した。

## Ⅱ．研究方法

栄養士、管理栄養士養成施設校（以下、栄養系）10校（四年制大学5校、短期大学3校、専門学校2校）2780名、ならびに保育士養成施設校（以下、保育系）6校（四年制大学2校、短期大学2校、専門学校2校）734名の女子学生を対象に母乳育児に関するアンケート調査を行った。学生に調査用紙を配布し、回答後にその場で回収した。養成施設校所在地は、東京都（7校）、埼玉県（1校、以下同じ）、青森県、宮城県、新潟県、千葉県、愛知県、長崎県、鹿児島県である。

調査は（1）母乳に関して授業で学習済か否かで比較する横断研究、ならびに（2）母乳に関する学習の前後で比較する縦断研究を行った。（1）の横断研究は授業で母乳について未だ学習していない群を「未学習」群、既に学習した群を「既学習」群とした。（2）の縦断研究は同一学生について授業で母乳について学習する前と後の2回調査した群を「学習後」群とした。この群の1回目と2回目の結果は「学習後」群1回目調査、「学習後」群2回目調査と表記した。また、同一学生の1回目調査、2回目調査の対象群として、母乳について学習しなかった学生についても同様に2回目の調査を行い、この群を「学習前」群とした。この群の1回目と2回目の結果は「学習前」群1回目調査、「学習前」群2回目調査と表記した。

対象学生の属性を（1）の横断研究については表1-1に、（2）の縦断研究については表1-2に示す。

調査内容は①母乳育児の希望、②母子同室に対する希望、③「母乳育児10カ条」の認知度、④母乳に関する基礎知識、⑤「母乳育児10カ条」の理解度、についてである。④の設問は表2に、⑤の設問は表3に示す。④と⑤の設問については「正解」、「不正解」ならびに「わからない」場合の「不明」の選択枝を用意した。

四年制大学、短期大学、専門学校間においては学校の種類別に差は観察されなかったので学校の種類別の分類は行わず、栄養系、保育系の分類を行った。

調査時期は平成16年1月～平成17年1月であった。

統計的解析はSPSS Ver.13.0を使用した。検定は「未学習」と「既学習」の比較はカイ2乗検定を、「学習前」「学習後」の1回目調査と2回目調査の比較はMcNemar検定を行った。

## Ⅲ．研究結果

### (1)母乳に関する学習の有無の比較

#### 1)母乳育児に対する希望

母乳育児に対しては、「ぜひ母乳で育てたい」は、「未学習」群の栄養系は約31%、保育系は39%であった。また、「既学習」群の栄養系は約45%、保育系は約41%であり、栄養系、保育系共に母乳について学習した群は「未学習」群に比べて多かった。一方、「ぜひ母乳で育てたい」と「できれば母乳で育てたい」を合わせると、栄養系は「未学習」群よりも「既学習」群は約10%多いが、保育系は逆に約6%少なかった。保育系では「混合栄養でもよい」が「未学習」群が約18%であるのに対して、「既学習」群では約25%と多かった。粉ミルクを希望する者は栄養系にごくわずか見られたが、

保育系にはいなかった。栄養系、保育系共に「未学習」群と「既学習」群の間には有意差があった（表4）。

**2) 母子同室に対する希望**

出産後の母子同室に対する希望のうち、「ぜひ母子同室で過ごしたい」と回答した「未学習」群保育系は栄養系より15.4%多かった。また、「既学習」群においても保育系は栄養系より7.8%多かった。栄養系、保育系共に「未学習」群と「既学習」群の差は少なかった。栄養系の「未学習」群と「既学習」群の間には有意差があった（表5）。

**3)「母乳育児10カ条」の認知度**

「母乳育児10カ条」の認知度は、「まったく知らない」は栄養系、保育系ともに「未学習」群の約82%、「既学習」群の約72%であった。「内容までよく知っている」は栄養系、保育系の「既学習」群においても3%に満たなかった。栄養系の「未学習」群と「既学習」群の間には有意差があった（表6）。

**4) 母乳に関する基礎知識**

母乳に関する基礎知識については、全般的に栄養系の正解率は保育系より「未学習」群、「既学習」群共に高い傾向がみられた。特に設問1の母乳中の免疫物質についての知識は、「既学習」群において、栄養系は保育系よりも正解が多く、不明が少なく、学習の効果が明らかにされた。設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについては、栄養系、保育系共に「未学習」群の正解率は約40%と低かった。設問3と5の人工乳の成分や衛生面、経済性、簡便性については、保育系は「既学習」群が「未学習」群より正解が少なく、「不明」が多かった。栄養系は「未学習」群より「既学習」群の正解が全ての設問で多かった。設問6の母乳を与えることが良好な母子関係の確立に役立つことについては栄養系、保育系の「未学習」群、「既学習」群共に正解率は95%を超えていた（図1-1、図1-2）。

栄養系では全ての設問で、「未学習」群と「既学習」群の間に有意差があった。一方、保育系で「未学習」群と「既学習」群の間に有意差があったのは、設問1の母乳中の免疫物質についての知識と、設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めること、ならびに設問5の人工乳の衛生面、経済性、簡便性についてであった。

**5)「母乳育児10カ条」の理解度**

「母乳育児10カ条」の理解度は「未学習」群、「既学習」群共に栄養系は保育系より正解が多い傾向にあった。栄養系は設問4の分娩後、30分以内の授乳についてと、設問8の乳児が欲しがるときに欲しがるままに授乳をすすめることについては、「未学習」群に比べ「既学習」群の正解率が約20%多かった。しかし、それ以外は、「未学習」群と「既学習」群に10%を超える正解率の差はなかった。保育系では「母乳育児10カ条」の理解度は「未学習」群と「既学習」群の正解率の差は小さかった。保育系の設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんとゴムの乳首やおしゃぶりを与えないことについては、「未学習」群に比べ「既学習」群は正解率が半減し、「不正解」が増加した（図2-1図2-2）。

栄養系では設問2と3の全ての医療従事者、妊婦に母乳育児をするために必要な知識、技術、方法を教える、知らせることについては「未学習」群と「既学習」群で有意差はなかったが、その他の設問では、両群間に有意差があった。一方、保育系においては、設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないことについてだけが、「未学習」群と「既学習」群で有意差があり、その他の設問では両群間に有意差はなかった。

**(2) 母乳に関する学習の前後比較**

**1) 母乳育児に対する希望**

母乳育児に対する希望は、栄養系の「学習後」群では、母乳に関して学習していない1回目調査で「ぜひ母乳で育てたい」と回答していた学生は、2回目調査でも70%が「ぜひ母乳で育てたい」と回答していた。しかし、「学習前」群は、1回目調査で「ぜひ母乳で育てたい」と回答していても、2回目調査では「できれば母乳で育てたい」や「混合栄養でもよい」へ移行する学生が「学習後」群よりそれぞれ約1.4倍、約2.2倍多かった（表7-1）。保育系について母乳育児に対する希望をみると、「学習前」群に比べ「学習後」群において、1回目調査で「ぜひ母乳で育てたい」、「できれば母乳で育てたい」と回答していても、2回目調査で「混合栄養でもよい」へ移行する学生が多く、これは栄養系の結果と反対であった（表7-2）。

**2) 母子同室に対する希望**

母子同室に対する希望は、栄養系においては「学習前」群と「学習後」群共に、1回目、2回目調査共に「ぜひ母子同室で過ごしたい」は約75%以上、「できれば母子同室で過ごしたい」は約60%以上であった。1回目と2回目の回答の移動についても両群間に大き

な差は観察されなかった（表8-1）。保育系については、1回目調査で「できれば母子同室で過ごしたい」から、2回目に「ぜひ母子同室で過ごしたい」に移行した学生が「学習前」群より「学習後」群は約1.6倍多かったことから、1回目の調査で「できれば母子同室で過ごしたい」と回答した学生には、母子同室についての学習効果が示唆された（表8-2）。

**3)「母乳育児10カ条」の認知度**

「母乳育児10カ条」の認知度を栄養系についてみると、「学習前」群では、1回目、2回目調査共に「まったく知らない」は80%を超えていた。「学習後」群では1回目、2回目調査共に「まったく知らない」は約40%と少なく、1回目調査で「まったく知らない」が、2回目調査では「聞いたことはあるが内容までは知らない」、「少しならば内容を知っている」に移行した。また、「学習後」群は1回目調査で「聞いたことはあるが内容までは知らない」から、2回目調査では「少しならば内容を知っている」に移行したものが約19%おり、「母乳育児10カ条」の認知度の多少に関らず、母乳に関する学習を受けたことが「母乳育児10カ条」の認知度をより高めていた（表9-1）。

一方、保育系は栄養系に比べて「学習前」群と「学習後」群の差があまりみられなかった。「学習前」群についてみると、1回目調査で「まったく知らない」から2回目に「少しならば聞いたことがある」に移行した学生が約52%おり、同じ回答をした栄養系が約14%であるのに対して多かった（表9-2）。

栄養系、保育系共に「学習後」群の1回目調査と2回目調査の間には有意差があった。

**4)母乳に関する基礎知識**

母乳に関する基礎知識について、栄養系は「学習前」群に比べ、「学習後」群は1回目調査よりも2回目調査の正解率が増加した。特に設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについては1回目調査に比べて2回目調査の正解率の増加割合が他の項目より著しかった。「学習前」群は設問2、3、5の母乳と人工乳の成分や衛生面、経済性、簡便性の項目において1回目調査より2回目調査の正解率が少なかった（図3-1、図3-2）。

栄養系の「学習前」群の1回目調査と2回目調査の間に有意差があったのは、設問1の母乳中の免疫物質についての知識と、設問3の人工乳の成分についてであった。一方、「学習後」群では、1回目調査と2回目調査の間に有意差があったのは、設問1の母乳中の免疫物質についての知識と、設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについて、ならびに設問5の人工乳の衛生面、経済性、簡便性の項目であった。

保育系の「学習前」群においては設問5の人工乳の衛生面、経済性、簡便性の項目を除き、1回目調査より2回目調査は正解率が多かった（図3-3）。「学習後」群は1回目調査より2回目調査の正解率が多かったのは設問1と4の母乳や人工乳の成分についての設問や母乳を与えると子宮の回復を早めることについての項目であった（図3-4）。

保育系の「学習前」群の1回目調査と2回目調査の間に有意差があったのは、設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについてと、設問5の人工乳の衛生面、経済性、簡便性の項目であった。一方、「学習後」群で1回目調査と2回目調査の間に有意差があったのは、設問1の母乳中の免疫物質についての知識、設問2の母乳の成分について、設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについて、ならびに設問5の人工乳の衛生面、経済性、簡便性についてであった。

栄養系と保育系の「学習前」群を比較すると、1回目調査より2回目調査の正解率の増加割合は保育系で大きかった。一方、「学習後」群を比較すると1回目調査より2回目調査の正解率の増加は栄養系の方が保育系よりやや大きかった（図3-1～図3-4）。

横断研究と縦断研究の結果を比較すると、栄養系、保育系共に設問4の母乳を与えると子宮の回復を早めることについては、縦断研究の方が横断研究に比べ、母乳についての学習により正解率が上がり、学習の効果が結果によく反映されていた。しかし、設問4以外では、母乳についての学習効果には横断研究と縦断研究であまり差はみられなかった（図1-1と図3-2、図1-2と図3-4）。

**5)「母乳育児10カ条」の理解度**

「母乳育児10カ条」の理解度について、栄養系は1回目調査に比べて2回目調査になると「学習前」群に比べて「学習後」群は正解率が高くなった。特に設問4の分娩後30分以内の授乳を援助すること、設問8の乳児が欲しがるときに、欲しがるままに授乳をすすめること、設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんとゴムの乳首やおしゃぶりを与えないことについては、1回目調査より2回目調査の正解率がそれぞれ約2.1倍、約2.3倍、約1.9倍に高まった（図4-1、図4-2）。

栄養系の「学習後」群の1回目調査と2回目調査の

間に有意差があったのは設問4の分娩後、30分以内の授乳について、設問5の母親に母乳分泌維持の方法を教えること、設問6の医学的な必要がないのに母乳以外の水分、糖水、人工乳を与えないこと、設問8の欲しがるままに授乳をすすめること、設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと、ならびに設問10の母乳育児の支援グループを作って援助することについてであった。

保育系においては、「学習前」群と「学習後」群の正解率の差は栄養系に比べて少なかった。「学習前」群についてみると、設問4の分娩後、30分以内の授乳については1回目調査に比べ2回目調査では正解率が約2倍になり、これは「学習後」群の約1.4倍より多かった（図4-3）。「学習後」群については、設問6の医学的な必要がないのに母乳以外の水分、糖水、人工乳を与えないことは1回目調査に比べ2回目調査の正解率は約2倍になり、学習効果が示された。その一方で、「学習後」群においては設問7の母子同室に関する項目は1回目調査より2回目調査の正解率が低下した（図4-4）。

保育系の「学習前」群の1回目調査と2回目調査の間で有意差があったのは、設問4の分娩後、30分以内の授乳についてであった。一方、「学習後」群で1回目調査と2回目調査の間に有意差があったのは、設問1の母乳育児の方針を全ての医療関係者に知らせること、設問4の分娩後、30分以内の授乳について、設問6の医学的な必要がないのに母乳以外の水分、糖水、人工乳を与えないこと、設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと、ならびに設問10の母乳育児の支援グループを作って援助することについてであった。

横断研究と縦断研究の結果を比較すると、栄養系は設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないことについては、縦断研究の方が横断研究に比べ、母乳についての学習により正解率が上がり、学習の効果が結果によく反映されていた。しかし、設問9以外では、母乳についての学習効果には横断研究と縦断研究であまり差はみられなかった（図2-1と図4-2）。保育系では、設問1の母乳育児の方針を医療従事者に知らせること、設問2の医療従事者に母乳育児に必要な知識と技術を教えること、設問4の分娩後30分以内の授乳を援助すること、設問6の医学的な必要がないのに母乳以外の水分、糖水、人工乳を与えないこと、設問9の母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと、設問10の母乳育児の支援グループを作って援助することについては、縦断研究の方が横断研究に比べ、母乳についての学習により正解率が上がり、学習の効果が結果によく反映されていた。しかし、それ以外の設問では、母乳についての学習効果には横断研究と縦断研究であまり差はみられなかった（図2-2と図4-4）。

## Ⅲ. 考察

WHO／UNICEFが共同声明として提唱した「母乳育児10カ条」はすべての産科施設向けのものである。また、その内容は分娩後に行われる病院業務に主眼をおいた「母乳育児」を推進するものであるために、本研究結果のように栄養系と保育系学生の認知度、理解度が低かったことはある意味では当然であるかもしれない。しかし、母乳育児を推進するためには複雑、かつ多様な要素が含まれるために、多くの専門分野を包括した知識が必要とされる。そこで、医師、助産師、保健師、看護士などの専門職以外にも、直接授乳指導に携わる機会はほとんどなくても栄養士や保育士といった乳児やその母親と接する機会をもつ専門職からの母親への支援も欠かせない。即ち、栄養士や保育士に対して、母親から母乳や母乳育児についての質問、相談があった場合、それらについての正しい理解や意識がなければ、母親に対して母乳育児を支援する適切な対応をとることは困難であることが多い。そこで、母乳育児を推進するためには、栄養士や保育士も母乳や母乳育児に対して、正確な知識をもち、また意識を高めることが必要である。本研究により、今まで明らかにされていなかった栄養士養成施設校、ならびに保育士養成施設校に在籍する学生の母乳育児推進に関する意識と教育の現状の一端を明らかにすることができた。

母乳育児に対して、栄養系、保育系共に「学習前」群、「学習後」群共に約80％～90％の学生は「ぜひ母乳で育てたい」と「できれば母乳で育てたい」と回答していた。しかし、1回目調査で「混合栄養でもよい」と回答した者のうち、母乳について「学習後」である2回目の調査でも、約40％と高率に「混合栄養でもよい」と回答していた。この原因の一部として本研究の母乳に関する基礎知識の正解率が、母乳について学習している「既学習」群や「学習後」群の調査2回目であっても、70％を超えたものは少なく、母乳の免疫学的利点、栄養学的利点、母体に対する利点、簡便性、経済性などの基礎的知識の欠如していること、ならび

に母乳育児に対する積極的な意識づけが十分に行われていないことが推察された。母乳に関する基礎知識を修得し、母乳育児に対する積極的な意識づけが行われることは、母乳育児についての理解を促す第一歩となり、それが母乳育児を推進していく上でも重要であると考える。

従来、母乳は人工乳に対して、栄養学的側面から「母乳栄養」が推進されてきた。しかし、近年では授乳という行為そのものが育児の一部分であるとの考えから、「母乳育児」の重要性が強調されるようになった。即ち「母乳育児」には授乳・哺乳という生理学的な意味だけにとどまらず、母乳育児が母子の絆の形成に大きな意味をもち、その行為の反復継続が母子の基本的信頼関係を築き上げるということが強調されるようになってきた[5]。

ところが、現在、栄養系学生に対して行われている教育は「母乳栄養」に偏り、「母乳育児」の視点が欠けているために母乳に関する基礎知識について栄養系は保育系に比べて正解率が高いが、「母乳育児10カ条」についての理解度は十分でなかった。一方、保育系学生に対しては「保育」の視点から母子について学びを深めているために、「母乳」について学んでいなくても「母乳育児」についての理解度は栄養系学生より高かったが、「母乳」についての基礎的な知識習得は十分とはいえない状況にあることが明らかにされた。

今後は栄養系の学生に対しては母乳の栄養的な側面を教育するだけでなく、母乳について「育児」の視点からの包括的な教育が望まれる。一方、保育系の学生に対しては、母乳に関する基本的な知識の習得につながる学習を積極的に行うことが、さらなる「母乳育児」を進めていく上での基本的用件であると考える。

母乳育児を推進するための教育を栄養系、保育系学生に行っていく場合、本調査結果でも正解率の低かった「母乳育児10カ条」に謳われている出生直後からの母子同室、生後30分以内の初回授乳などの環境を整えることの重要性を理解させることは重要である。しかし、それだけでなく、母親に対しての心理的な支援の必要性についても教育することが必要であると考える。なぜなら、この母親に対しての心理的な支援の中には、母乳で育てられなかった母親への支援も含まれ、この支援が欠如していると、それらの母親を追い詰めることになり、真の母乳育児の推進にはならないと考えるからである。

本研究においては「母乳育児10カ条」を取り上げたが、この10カ条の基本には育児本来のあり方である母親と乳児が出生直後からいつも一緒にいて、母乳を通して栄養と愛情を与えられるということを踏まえ、それを支援する方策が盛り込まれていると考える。「母乳育児」の推進には、「母乳」を「栄養」面から捉えるだけでなく、母親と乳児をとりまく多領域の多職種により行われる教育、ならびに支援が必要である。この「母乳育児10カ条」の真の意味を、栄養士や保育士も正しく理解し、母親がさまざまな形や時期に支援を求めてきた場合に、的確に対応できることが大切である。今後、栄養士や保育士の養成に携わる者は、自らが母乳育児の推進に対して研鑽を積むとともに、学生に対しては母乳や母乳育児について正しい知識修得が可能となり、母乳育児の意識を高められるように、教育カリキュラムの見直しや卒後研修の充実に努めることが重要である。

## Ⅳ. まとめ

栄養士養成施設校、保育士養成施設校の学生の「母乳に関する基礎知識」の理解度と「母乳育児を成功させるための10カ条」（ユニセフ・WHOによる共同声明、1989年）の認知度、理解度は低いことが明らかにされた。

母乳育児の推進には、多領域・多職種による母親への包括的な支援が必要である。そこで今までは、直接授乳指導に携わることのなかった栄養士や保育士にも、母乳に関する基礎的な知識を充実させ、また、母乳育児に対して理解を深めることにより母乳育児を積極的に支援することが求められている。今後は栄養士、ならびに保育士養成施設校において、その養成に携わる者自身が母乳育児に対して認識を高め、学生の正しい理解を促がすことが可能となるように、教育カリキュラムの見直しや養成施設校における教育の工夫に努めることが重要である。

### 謝辞

稿を終えるにあたり、本研究に着手する契機をお与えくださいました独立行政法人国立病院機構長崎医療センター小児科部長　吉永宗義先生に深謝いたします。

また、アンケート調査に快くご協力いただきました南九州大学助教授　伊藤薫先生、首都大学東京・都立短期大学准教授　稲山貴代先生、二葉栄養専門学校教授　上田玲子先生、北里大学保健衛生専門学院専任講師　大江秀夫先生、宮城学院女子大学専任講師　大山

珠美先生、県立長崎シーボルト大学教授　奥恒行先生、淑徳大学教授　柏女霊峰先生、国立成育医療センター部長　加藤忠明先生、青森中央短期大学学長　久保薫先生、首都大学東京・都立短期大学教授　篠田粧子先生、愛知学泉大学助教授　清水瑠美子先生、女子栄養大学短期大学部教授　殿塚婦美子先生、国立国際医療センター研究所室長　西田美佐先生、女子栄養大学教授　二見大介先生（五十音順）、ならびに学生の皆様に感謝申し上げます。

## 文献

1) WHO/UNICEF, Protecting, Promoting and Supporting Breastfeeding－The Special Role of Maternity Services, A Joint WHO/UNICEF Statement,1989.
2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課．母乳栄養の推進．我が国の母子保健．母子保健事業団．東京．2001；29-31.
3) Li R, Zhao Z, Mokdad A, et al. Prevalence of breastfeeding in the United States : the 2001 National Survey. Pediatrics 2003 ; 111, 1198-1201.
4) Hamlyn B, brooker S, Oleinikova K, et al. Infant feeding 2000. London : The Stationery Office, 2002.
5) 橋本武夫．母乳と育児．母子保健情報．2003年；第47号：2-5.

表1-1　対象者の属性

| | | 未学習 | | | | 既学習 | | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学校数 | 年齢 | | | 学校数 | 年齢 | | | 学校数 | 年齢 | | |
| | | | n | mean | SD | | n | mean | SD | | n | mean | SD |
| 栄養系 | 4年制大学 | 5 | 789 | 18.7 | 1.1 | 2 | 1262 | 20.4 | 2.3 | 7 | 2051 | 19.7 | 2.1 |
| | 短期大学 | 3 | 189 | 18.7 | 2.4 | 2 | 240 | 19.6 | 2.0 | 5 | 429 | 19.2 | 2.2 |
| | 専門学校 | 2 | 158 | 20.2 | 4.1 | 2 | 142 | 21.3 | 3.8 | 4 | 300 | 20.7 | 4.0 |
| | 合計 | 10 | 1136 | 18.9 | 2.1 | 6 | 1644 | 20.3 | 2.4 | 16 | 2780 | 19.8 | 2.4 |
| 保育系 | 4年制大学 | 5 | 99 | 19.4 | 0.6 | 2 | 49 | 20.4 | 1.1 | 7 | 148 | 19.4 | 0.7 |
| | 短期大学 | 3 | 379 | 18.1 | 0.6 | 2 | 106 | 19.5 | 1.4 | 5 | 485 | 18.5 | 1.1 |
| | 専門学校 | 2 | 62 | 20.3 | 5.1 | 2 | 39 | 19.8 | 2.2 | 4 | 101 | 20.1 | 4.2 |
| | 合計 | 10 | 540 | 18.7 | 2.1 | 6 | 194 | 19.6 | 1.6 | 16 | 734 | 18.9 | 2.1 |
| 合計 | 4年制大学 | 5 | 888 | 18.8 | 1.1 | 2 | 1311 | 20.4 | 2.3 | 7 | 2199 | 19.7 | 2.0 |
| | 短期大学 | 3 | 568 | 18.3 | 1.6 | 2 | 346 | 19.5 | 1.8 | 5 | 914 | 18.8 | 1.8 |
| | 専門学校 | 2 | 220 | 20.3 | 4.4 | 2 | 181 | 21.0 | 3.6 | 4 | 401 | 20.6 | 4.1 |
| | 合計 | 10 | 1676 | 18.9 | 2.1 | 6 | 1838 | 20.3 | 2.4 | 16 | 3514 | 19.6 | 2.4 |

表1-2　対象者の属性

| | | 学習前 | | | | 学習後 | | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学校数 | 年齢 | | | 学校数 | 年齢 | | | 学校数 | 年齢 | | |
| | | | n | mean | SD | | n | mean | SD | | n | mean | SD |
| 栄養系 | 4年制大学 | 2 | 8 | 20.8 | 4.6 | 2 | 46 | 19.3 | 1.0 | 2 | 54 | 19.5 | 1.9 |
| | 短期大学 | 0 | | | | 2 | 73 | 19.2 | 3.5 | 2 | 73 | 19.2 | 3.5 |
| | 専門学校 | 1 | 49 | 18.2 | 0.5 | 1 | 44 | 19.5 | 1.1 | 1 | 93 | 18.8 | 1.1 |
| | 合計 | 3 | 57 | 18.5 | 1.9 | 5 | 163 | 19.3 | 2.5 | 5 | 220 | 19.1 | 2.4 |
| 保育系 | 4年制大学 | 2 | 34 | 19.2 | 0.5 | 2 | 45 | 19.3 | 0.5 | 2 | 79 | 19.3 | 0.5 |
| | 短期大学 | 0 | – | – | – | 1 | ND | ND | ND | 1 | ND | ND | ND |
| | 専門学校 | 0 | – | – | – | 2 | 16 | 19.6 | 2.5 | 2 | 16 | 19.6 | 2.5 |
| | 合計 | 2 | 34 | 19.2 | 0.5 | 5 | 61 | 19.4 | 1.3 | 5 | 95 | 19.3 | 1.1 |
| 合計 | 4年制大学 | 2 | 42 | 19.5 | 2.0 | 4 | 91 | 19.3 | 0.8 | 4 | 133 | 19.4 | 1.3 |
| | 短期大学 | 0 | – | – | – | 2 | 73 | 19.2 | 3.5 | 2 | 73 | 19.2 | 3.5 |
| | 専門学校 | 1 | 49 | 18.2 | 0.5 | 3 | 60 | 19.5 | 1.6 | 3 | 109 | 18.9 | 1.4 |
| | 合計 | 3 | 91 | 18.8 | 1.6 | 7 | 224 | 19.3 | 2.2 | 9 | 315 | 19.2 | 2.1 |

表2

1. (○)母乳中には免疫グロブリンA、ラクトフェリン、ビフィズス菌増殖因子などの感染防御因子が含まれている
2. (×)母乳の成分よりも、最近開発された人工乳の成分の方が赤ちゃんに適するように工夫されている
3. (×)人工乳の方が母乳よりも濃度の調節ができるために代謝の負担が少ない
4. (○)赤ちゃんが母親の乳首を吸うと出産後の子宮の回復が早い
5. (×)人工乳は衛生的、経済的で手間もかからない
6. (○)母乳を与えることにより母子のアイ コンタクト(eye contact)、肌のふれあいなどができて、良好な母子関係の確立に役立つ

正答　○正しい、×間違い、△わからない

表3

1. (○)母乳育児の方針を全ての医療に関わっている人に、常に知らせること
2. (○)全ての医療従事者に母乳育児をするために必要な知識と技術を教えること
3. (○)全ての妊婦に母乳育児の良い点とその方法を良く知らせること
4. (○)母親が分娩後、30 分以内に母乳を飲ませられるように援助をすること
5. (○)母親の授乳の指導を充分にし、もし、赤ちゃんから離れることがあっても母乳の分泌を維持する方法を教えてあげること
6. (○)医学的な必要がないのに母乳以外のもの、水分、糖水、人工乳を与えないこと
7. (○)母子同室にすること。赤ちゃんと母親が1 日中24 時間、一緒にいられるようにすること
8. (○)赤ちゃんが欲しがるときに、欲しがるままに授乳をすすめること
9. (○)母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと
10. (○)母乳育児のための支援グループを作って援助し、退院する母親に、このようなグループを紹介すること

正答　○正しい、×間違い、△わからない

表4 母乳育児に対する希望

| | | 栄養系* | | | 保育系* | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 未学習 | 既学習 | 合計 | 未学習 | 既学習 | 合計 |
| ぜひ母乳で育てたい | n | 353 | 734 | 1087 | 208 | 80 | 288 |
| | % | 31.1 | 44.6 | 39.1 | 38.5 | 41.2 | 39.2 |
| できれば母乳で育てたい | n | 480 | 621 | 1101 | 223 | 61 | 284 |
| | % | 42.3 | 37.8 | 39.6 | 41.3 | 31.4 | 38.7 |
| 混合栄養でもよい | n | 250 | 264 | 514 | 96 | 49 | 145 |
| | % | 22.0 | 16.1 | 18.5 | 17.8 | 25.3 | 19.8 |
| できれば粉ミルクで育てたい | n | 13 | 5 | 18 | 0 | 2 | 2 |
| | % | 1.1 | 0.3 | 0.6 | 0.0 | 1.0 | 0.3 |
| ぜひ粉ミルクで育てたい | n | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| | % | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | n | 38 | 18 | 56 | 13 | 2 | 15 |
| | % | 3.3 | 1.1 | 2.0 | 2.4 | 1.0 | 2.0 |

*:未学習vs既学習 $p>0.05$

表5 母子同室に対する希望

| | | 栄養系* | | | 保育系 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 未学習 | 既学習 | 合計 | 未学習 | 既学習 | 合計 |
| ぜひ母子同室で過ごしたい | n | 538 | 828 | 1366 | 339 | 113 | 452 |
| | % | 47.4 | 50.4 | 49.1 | 62.8 | 58.2 | 61.6 |
| できれば母子同室で過ごしたい | n | 513 | 695 | 1208 | 186 | 75 | 261 |
| | % | 45.2 | 42.3 | 43.5 | 34.4 | 38.7 | 35.6 |
| 母子同室は望まない | n | 15 | 40 | 55 | 3 | 0 | 3 |
| | % | 1.3 | 2.4 | 2.0 | 0.6 | 0.0 | 0.4 |
| わからない | n | 70 | 81 | 151 | 12 | 6 | 18 |
| | % | 6.2 | 4.9 | 5.4 | 2.2 | 3.1 | 2.5 |

*:未学習vs既学習 $p>0.05$

表6 「母乳育児10カ条」の認知度

| | | 栄養系* | | | 保育系 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 未学習 | 既学習 | 合計 | 未学習 | 既学習 | 合計 |
| まったく知らない | n | 958 | 1154 | 2112 | 426 | 144 | 570 |
| | % | 84.3 | 70.2 | 76.0 | 78.9 | 74.2 | 77.7 |
| 聞いたことはあるが、内容までは知らない | n | 161 | 348 | 509 | 104 | 45 | 149 |
| | % | 14.2 | 21.2 | 18.3 | 19.3 | 23.2 | 20.3 |
| 少しならば内容を知っている | n | 11 | 104 | 115 | 6 | 4 | 10 |
| | % | 1.0 | 6.3 | 4.1 | 1.1 | 2.1 | 1.4 |
| 内容についてよく知っている | n | 6 | 38 | 44 | 4 | 1 | 5 |
| | % | 0.5 | 2.3 | 1.6 | 0.7 | 0.5 | 0.7 |

*:未学習vs既学習 $p>0.05$

表7-1　母乳育児に対する希望（栄養系）

| | | 栄養系 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | | | | 学習後 | | | | | |
| | | ぜひ母乳で育てたい | できれば母乳で育てたい | 混合栄養でもよい | ぜひ粉ミルクで育てたい | わからない | 合計 | ぜひ母乳で育てたい | できれば母乳で育てたい | 混合栄養でもよい | ぜひ粉ミルクで育てたい | わからない | 合計 |
| ぜひ母乳で育てたい | n | 8 | 5 | 2 | 0 | 0 | 15 | 35 | 12 | 3 | 0 | 0 | 50 |
| | % | 53.3 | 33.3 | 13.3 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 70.0 | 24.0 | 6.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| できれば母乳で育てたい | n | 12 | 11 | 1 | 0 | 0 | 24 | 25 | 31 | 4 | 0 | 0 | 60 |
| | % | 50.0 | 45.8 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 41.7 | 51.7 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| 混合栄養でもよい | n | 3 | 5 | 5 | 0 | 0 | 13 | 7 | 20 | 19 | 0 | 1 | 47 |
| | % | 23.1 | 38.5 | 38.5 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 14.9 | 42.6 | 40.4 | 0.0 | 2.1 | 100.0 |
| できれば粉ミルクで育てたい | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | 100.0 |
| ぜひ粉ミルクで育てたい | n | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| わからない | n | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 6 |
| | % | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 75.0 | 100.0 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 100.0 |

表7-2　母乳育児に対する希望（保育系）

| | | 保育系 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | | 学習後 | | | | | |
| | | ぜひ母乳で育てたい | できれば母乳で育てたい | 混合栄養でもよい | 合計 | ぜひ母乳で育てたい | できれば母乳で育てたい | 混合栄養でもよい | できれば粉ミルクで育てたい | わからない | 合計 |
| ぜひ母乳で育てたい | n | 8 | 2 | 0 | 10 | 37 | 19 | 9 | 1 | 0 | 66 |
| | % | 80.0 | 20.0 | 0.0 | 100.0 | 56.1 | 28.8 | 13.6 | 1.5 | 0.0 | 100.0 |
| できれば母乳で育てたい | n | 7 | 12 | 1 | 20 | 10 | 27 | 12 | 0 | 0 | 49 |
| | % | 35.0 | 60.0 | 5.0 | 100.0 | 20.4 | 55.1 | 24.5 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| 混合栄養でもよい | n | 1 | 2 | 1 | 4 | 4 | 8 | 15 | 0 | 0 | 27 |
| | % | 25.0 | 50.0 | 25.0 | 100.0 | 14.8 | 29.6 | 55.6 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| できれば粉ミルクで育てたい | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ぜひ粉ミルクで育てたい | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 100.0 |

表8-1 母子同室に対する希望(栄養系)

| | | 栄養系 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | | 学習後 | | | | |
| | | ぜひ母子同室で過ごしたい | できれば母子同室で過ごしたい | わからない | 合計 | ぜひ母子同室で過ごしたい | できれば母子同室で過ごしたい | 母子同室は望まない | わからない | 合計 |
| ぜひ母子同室で過ごしたい | n | 18 | 3 | 0 | 21 | 58 | 16 | 0 | 1 | 75 |
| | % | 85.7 | 14.3 | 0.0 | 100.0 | 77.3 | 21.3 | 0.0 | 1.3 | 100.0 |
| できれば母子同室で過ごしたい | n | 13 | 19 | 0 | 32 | 26 | 49 | 1 | 2 | 78 |
| | % | 40.6 | 59.4 | 0.0 | 100.0 | 33.3 | 62.8 | 1.3 | 2.6 | 100.0 |
| 母子同室は望まない | n | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | % | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |
| わからない | n | 0 | 1 | 2 | 3 | 2 | 9 | 0 | 2 | 13 |
| | % | 0.0 | 33.3 | 66.7 | 100.0 | 15.4 | 69.2 | 0.0 | 15.4 | 100.0 |

表8-2 母子同室に対する希望(保育系)

| | | 保育系 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | 学習後 | | | |
| | | ぜひ母子同室で過ごしたい | できれば母子同室で過ごしたい | 合計 | ぜひ母子同室で過ごしたい | できれば母子同室で過ごしたい | わからない | 合計 |
| ぜひ母子同室で過ごしたい | n | 17 | 9 | 26 | 62 | 26 | 0 | 88 |
| | % | 65.4 | 34.6 | 100.0 | 70.5 | 29.5 | 0.0 | 100.0 |
| できれば母子同室で過ごしたい | n | 2 | 5 | 7 | 25 | 27 | 3 | 55 |
| | % | 28.6 | 71.4 | 100.0 | 45.5 | 49.1 | 5.5 | 100.0 |
| 母子同室は望まない | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| わからない | n | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | % | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |

表9-1 「母乳育児10カ条」の認知度（栄養系）

| | | 栄養系 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | | 学習後* | | | | |
| | | まったく知らない | 聞いたことはあるが、内容までは知らない | 少しならば内容を知っている | 合計 | まったく知らない | 聞いたことはあるが、内容までは知らない | 少しならば内容を知っている | 内容についてよく知っている | 合計 |
| まったく知らない | n | 36 | 6 | 2 | 44 | 55 | 58 | 17 | 1 | 131 |
| | % | 81.8 | 13.6 | 4.5 | 100.0 | 42.0 | 44.3 | 13.0 | 0.8 | 100.0 |
| 聞いたことはあるが、内容までは知らない | n | 4 | 8 | 0 | 12 | 5 | 20 | 6 | 0 | 31 |
| | % | 33.3 | 66.7 | 0.0 | 100.0 | 16.1 | 64.5 | 19.4 | 0.0 | 100.0 |
| 少しならば内容を知っている | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |
| 内容についてよく知っている | n | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | % | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 100.0 |

*:1回目vs2回目　p>0.05

表9-2 「母乳育児10カ条」の認知度（保育系）

| | | 保育系 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学習前 | | | | 学習後* | | | | |
| | | まったく知らない | 聞いたことはあるが、内容までは知らない | 少しならば内容を知っている | 合計 | まったく知らない | 聞いたことはあるが、内容までは知らない | 少しならば内容を知っている | 内容についてよく知っている | 合計 |
| まったく知らない | n | 11 | 14 | 2 | 27 | 72 | 39 | 8 | 4 | 123 |
| | % | 40.7 | 51.9 | 7.4 | 100.0 | 58.5 | 31.7 | 6.5 | 3.3 | 100.0 |
| 聞いたことはあるが、内容までは知らない | n | 2 | 3 | 1 | 6 | 6 | 5 | 5 | 0 | 16 |
| | % | 33.3 | 50.0 | 16.7 | 100.0 | 37.5 | 31.3 | 31.3 | 0.0 | 100.0 |
| 少しならば内容を知っている | n | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 100.0 |
| 内容についてよく知っている | n | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | % | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |

*:1回目vs2回目　p>0.05

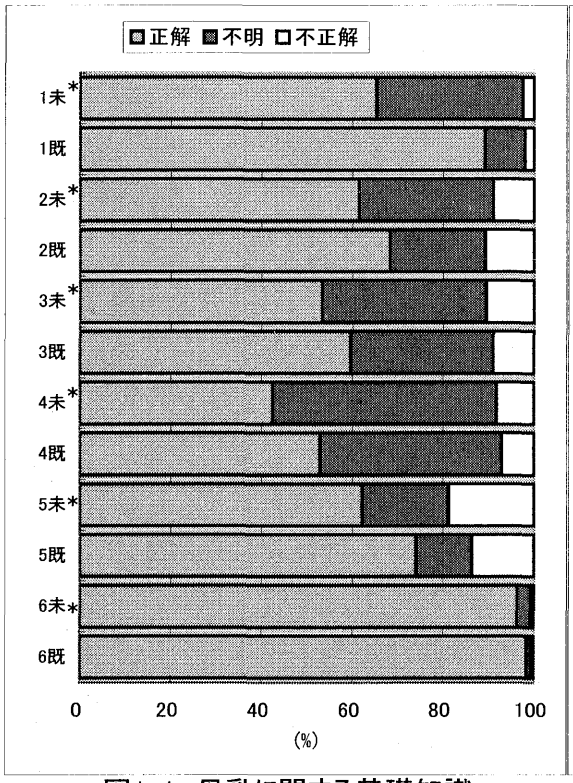


図1-1 母乳に関する基礎知識
(「未学習」と「既学習」群、栄養系)
*:未学習vs既学習 p>0.05

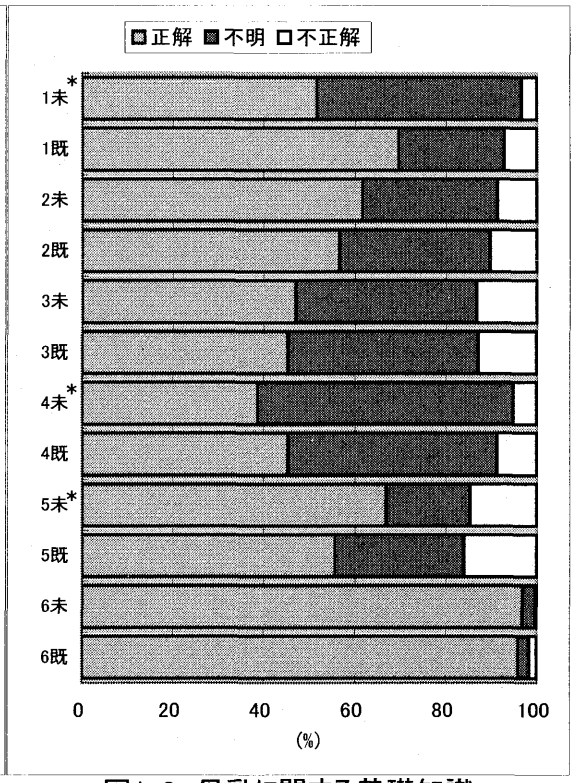


図1-2 母乳に関する基礎知識
(「未学習」と「既学習」群、保育系)

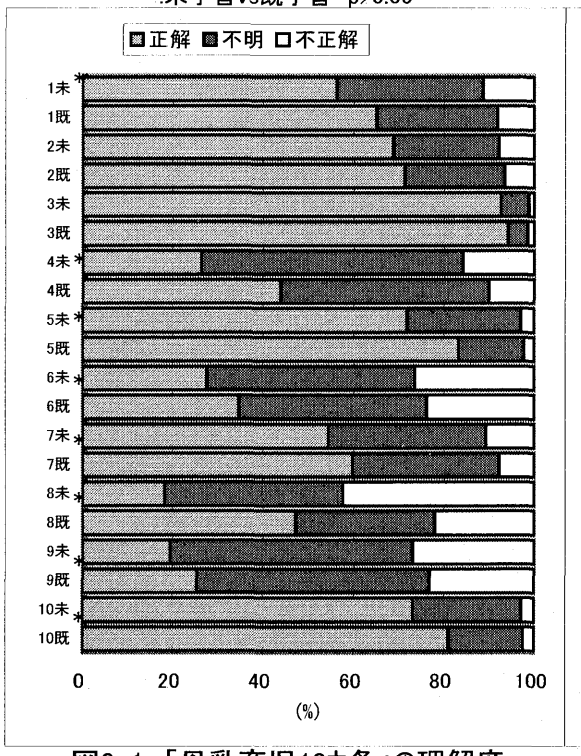


図2-1 「母乳育児10カ条」の理解度
(「未学習」と「既学習」群、栄養系)
*:未学習vs既学習 p>0.05

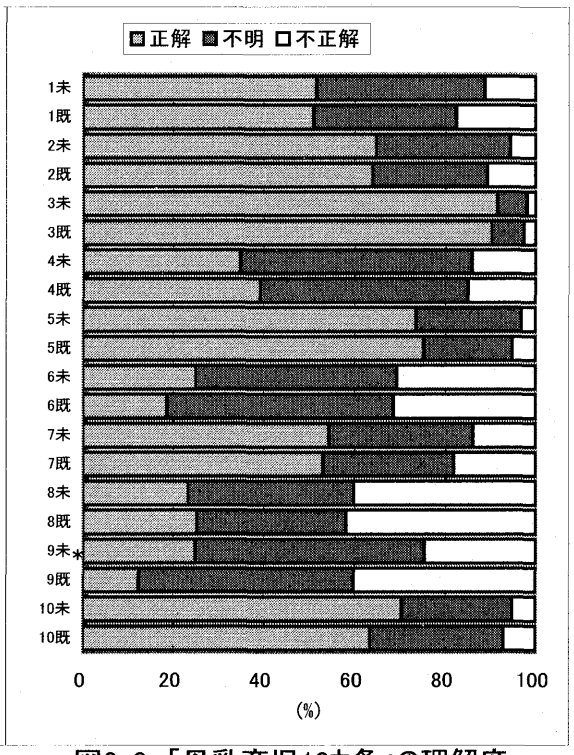


図2-2 「母乳育児10カ条」の理解度
(「未学習」と「既学習」群、保育系)

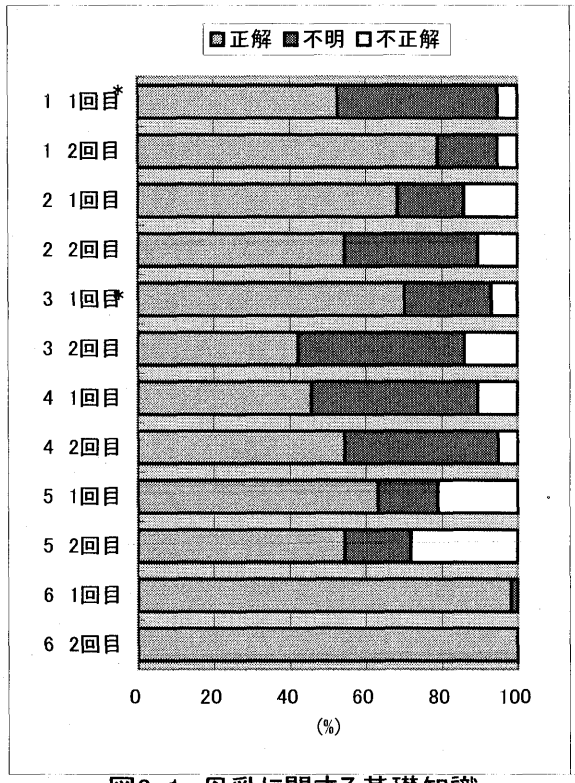


図3-1　母乳に関する基礎知識
（1回目と2回目、「学習前」、栄養系）

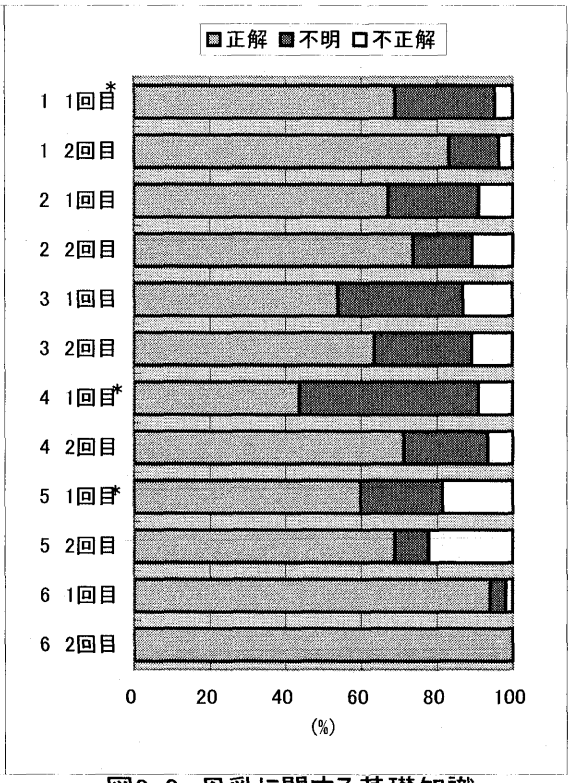


図3-2　母乳に関する基礎知識
（1回目と2回目、「学習後」、栄養系）

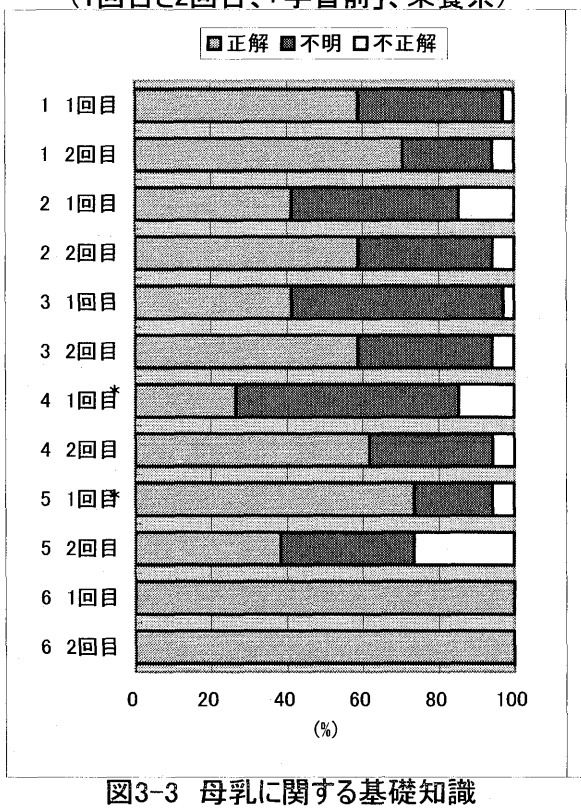


図3-3　母乳に関する基礎知識
（1回目と2回目、「学習前」、保育系）
*:1回目vs2回目　p>0.05

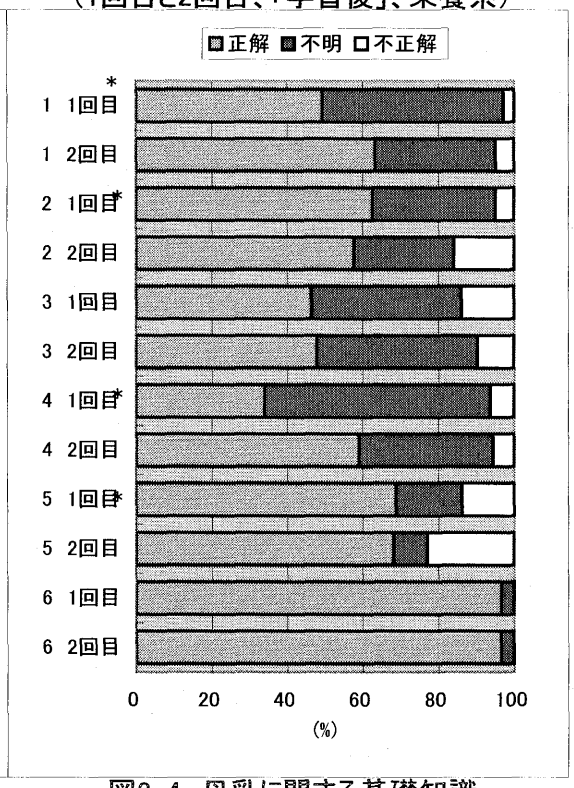


図3-4　母乳に関する基礎知識
（1回目と2回目、「学習後」、保育系）

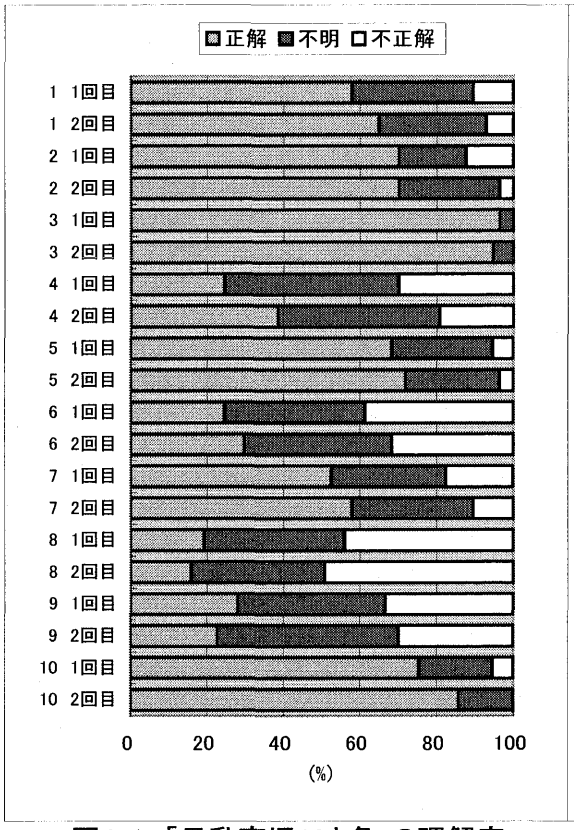


図4-1 「母乳育児10カ条」の理解度
(1回目と2回目、「学習前」、栄養系)

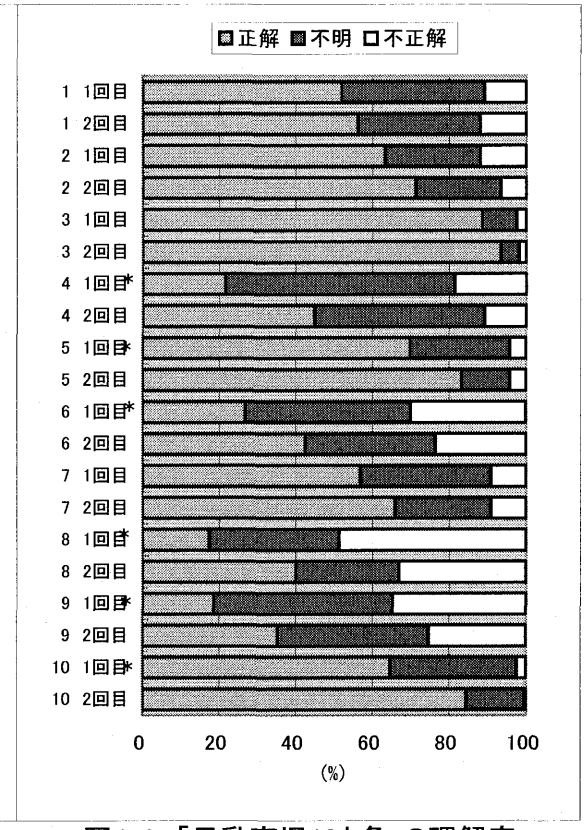


図4-2 「母乳育児10カ条」の理解度
(1回目と2回目、「学習後」、栄養系)

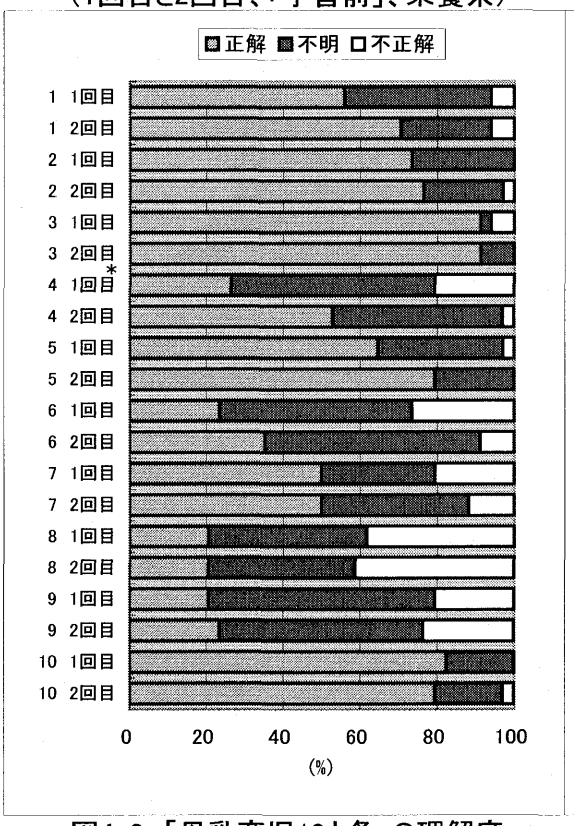


図4-3 「母乳育児10カ条」の理解度
(1回目と2回目、「学習前」、保育系)

*:1回目vs2回目 p>0.05

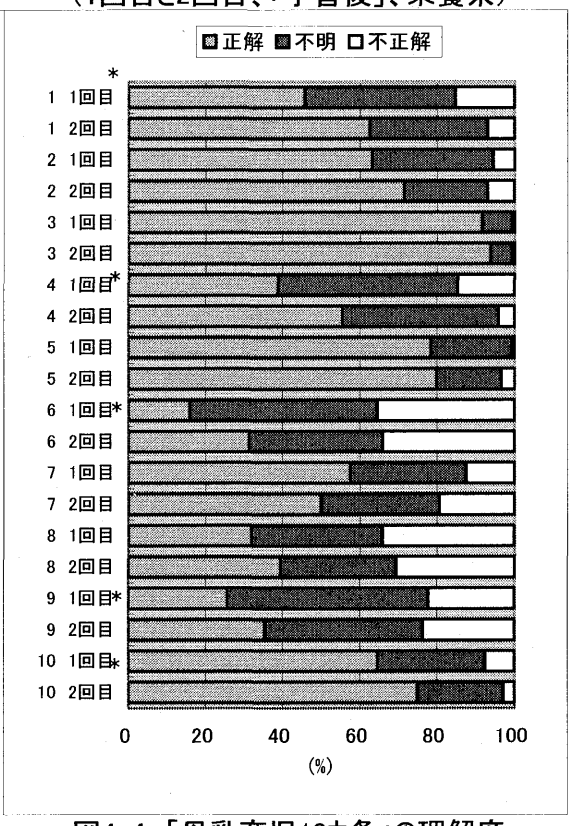


図4-4 「母乳育児10カ条」の理解度
(1回目と2回目、「学習後」、保育系)